

日時：2008年3月22日～23日

山名：八ヶ岳

メンバー：谷嶋、渡邊

ルート名：硫黄岳から赤岳

形態：縦走

報告：谷嶋

別メンバーと計画していた山行がキャンセルになり、新人？の渡邊君とどこかへ行こうと思い、八ヶ岳へ行くことに。実は私自身、八ヶ岳にはほとんど行ったことがないこともあり、新鮮な登山でした。

1日目 快晴。赤岳鉱泉まで。前夜の移動が遅かったため、8時起床。ゆっくり出発する。車で奥までは入らず、1時間余計に歩いたが、それでもゆっくり歩いて3時間掛からずに鉱泉着。テントを建ててゆっくりした後、中山乗越の展望台へ。そこには東京のどこぞの山岳会に所属している年配の方が居て、昔の武勇伝を聞かされた。私に変に話に食い付いてしまったため、そこで彼の話を聞きながら1時間つぶした後、テントへ戻る。彼には後でウイスキーを一瓶頂いたので、ありがたくご馳走になった。風は気持ちよく、完全に春山の気分。渡邊君は新調のJET BOILを持ってきたが、使い方にまだ慣れず、コーヒージェットを吹き上げていた。私も結構道具は好きなのだが、城君、まずは体に近い所(下着、手袋、靴下とか)からお金を使いましょう。

2日目 晴れ。薄曇り。朝4時半起床、5時10分発。まだ暗いうちにヘッドランプをつけて硫黄岳方面へ。大して早発ちではないのだが、トレースは昨日のもので、我々が朝一番のようだ。硫黄岳の手前、森林限界を抜けたところで朝日を迎える。右手に朝日を見ながら、やや硬い雪面にアイゼンを効かせて登るのが気持ちよい。硫黄岳は7時ちょうど。横岳手前の鎖場の手前では斜面をトラバースするところがあり、そこでロープを出した。ハーネスが無いためスリングでチェストハーネスを作り、鎖の支柱を支点にビレイした。横岳から赤岳は、富士山を望みながらの縦走。途中下りの岩場で腰が引けているパーティの横の雪の斜面をキックステップで降りたが、もう少し時間が遅いと雪が腐って下りにくかったと思う。赤岳10時20分。鉱泉にはお昼過ぎに着。

ルートには色々な要素があり、やはり良い山だなあと考えた。稜線上は、滑ったら結構落ちてしまう「易しいが危険」なところもあり、一部ロープを出したものの、もっと積極的にロープを使えば良かったと思った。特にまだ山慣れしていないメンバーと行く際には、必ずロープが必要と思った。渡邊君は過度に怖がって腰が引けることなく、そこそこのペースで歩いてくれたので、楽な山行でした。